

W57b X線天文衛星「すざく」簡易解析支援環境の試作

宇野伸一郎、森上 恭与士、(日本福祉大 情報)、海老沢 研、村上弘志、田村隆幸、三浦昭、篠原育、松崎恵一、満田和久(宇宙研)、馬場肇(茨城大学)

昨年、X線天文衛星「すざく」が打ち上げられ、新たな成果が続々と報じられてきている。「すざく」のデータは今後ますますその重要性を増していくだろう。それと同時に、簡易に解析環境を構築する事の需要も高まってきている。

日本福祉大学情報社会科学部では、宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 PLAIN センターと協力し、X線天文衛星「すざく」のデータ解析を行うための簡易解析環境「Suzaku on KNOPPIX」を構築した。本環境は、IBM PC/AT 互換機上で CD-ROM からブートできる debian GNU/Linux ベースの OS 「knoppix」を改変し、「すざく」のデータ解析に必要なソフトウェアやサンプルデータを収録したものである。

CD-ROM ブート型の解析環境を作ることで、インストールや各種初期設定の手間を省くことができ、他波長・他分野の研究者でも簡単に解析を行うことが可能となる。またこの解析環境は、専門的に研究する場合に限らなくとも、試しに解析をおこなってみたい場合や、大学学部教育において教材にする場合などで、有用なものとなるだろう。さらに、各家庭にある PC を用いて、試みに解析を行うことも可能となる。

本発表では、Suzaku on KNOPPIX 開発の現状と、今後の開発について報告する予定である。